

東葛支部会報

第31号

千葉工業同窓会東葛支部

2019年5月1日



日本の名城シリーズ その8

若松城 (一般的には会津若松城と呼ばれることが多い、国の史跡として指定されている)

1384年蘆名氏の7代当主蘆名直盛が小田垣の館または東黒川城とその城下が成立していた。以後、代々蘆名氏の城であった。1589年蘆名氏と戦いを繰り返していた伊達政宗が蘆名氏を滅ぼし黒川城を手にした。政宗は1590年秀吉に臣従し会津を召し上げられた。代わって蒲生氏郷が入場し、大大名に相応しい近代城郭改造し、城下町を整備した。以後城主は上杉景勝、加藤嘉明、保科正之と変わり、明治維新まで会津松平家(保科氏から改名)の居城となった。

築城1384年 廃城1874年(明治7年)

(ウィキペディアより引用)

千葉工業同窓会 東葛支部は今回20周年を迎えました。

これもひとえに同窓会本部の方々、母校、財団、支部会員のご協力があってこそだと思います。

私なりに振り返ってみますと、当支部の設立は1999年(平成11年)6月20日 柏市増尾近隣センターにて、同窓会の9番目の支部として、発足しました。設立総会は、故安藤元同窓会会長、故景山元校長、段木元校長、当時の永峯校長、はじめ各支部の役員、東葛支部会員としての方々など、総数74名の参加にておこなわれ、初代支部長として立崎作次さん(32C卒)が選出されました。



発足当時のエリアは、7市(浦安、市川、松戸、柏、我孫子、流山、野田)と2町(沼南、関宿)でしたが、現在は沼南は柏市と、関宿は野田市と合併し、新たに他県在住の同窓生もエリアに含まれ現在に至っています。

2回目から9回目までの総会は市川市の八幡会館で行われ、八幡会館の閉鎖に伴い、10回目から現在まで、我孫子市の鈴木屋本店に会場を移し行われています。

私が支部に入会したのは、2003年、現役をしりぞいて少し仕事をした後の63歳の時でした。その前から立崎支部長より入会を勧誘されていましたが、「仕事があるから」と断り続けていましたが、とうとう入会する事になり、県外に住んでいる同級生の方々に電話し、会員として登録していただいた経緯があります。

ここで、昨年の9月23日で亡くなられた吉田勝彦(32E卒)2代目支部長の社会活動、他について話したいと思います。

① 定年後間もなく、当時関東でラグビーの強豪校であった東京の保善高校OBと母校OBによる親善試合を母校グラウンドにて行い、この試合の映像が「あなたの夢叶えます」と題して平成14年正月NHK総合テレビで全国放送されました。これがきっかけで、同窓会クラブ活動OBサークルの会が発足したと聞いております。その時に使われたボールが故人の遺贈としてサークルに寄贈されました。昨年の母校文化祭にも映し出されていましたが、今年の創立記念日に、北総支部長の中村勇三郎(38M卒)氏の講演の中で取り上げられるかもしれません。

② 津田沼校舎跡地に記念碑の建立に携わったことです。津田沼校舎の卒業生は一度は見学に行っているのではないかと思います。

③ 昭和40年代学生運動が活発なりし頃、千葉県の高校でも、荒れる時代がありました。

自宅の近くに設立された県立高柳高校も例外ではありませんでした。

そんな折、東武高柳駅舎(現在はアーバンテライン高柳駅)の出口に朝早くから立ち

高校生に「おはよう」と声をかけ、(おはよう運動)を始めたことです。

最初は、(なんだ変なおじさん)と生徒たちにそっぽをむかれていましたが、1年が過ぎた頃から「おはようございます」の返事が多くなり、現在は荒れた学校も運動部を中心に電車の中でも、「おはようございます」の声が聞かれるようになり、学校の偏差値も上がっているようです。

昨年から東葛支部の中村軍治(32M卒)副支部長の甥子さんが校長として赴任しているようです。

④ 柏市社会福祉協議会とタイアップし、地域の活性化助成金の対象として、千葉県から500万円の無返済の資金が助成され、高柳児童センターの隣に、地域の市民が気楽に集まり軽食ができる、市民運営のサロンを作り、地域の融和と活性化を計ったことです。

この地域は沼南町の時代から「やくごの地区」と言われ新住民と旧住民のいさかいが多く発生して

いた地域でした。今では市内でも模範となっている地域であり、他市より視察に訪れる地域になっています。

その他。柏市老人クラブ会長、ゴミ拾い運動活動、高柳小学校の校外責任者として自由に体育館の出入りができる鍵の貸与、高柳祭りの会長など、多々あります。

さて、東葛支部の次のステップの展望を述べる前に、今世間で言われ出した事が100と言う数字のようです。1つ目は出生数、3年連続で100万人を切り今は96万人です。2つ目は国の予算額、とうとう100兆円を突破しました。税収は60兆円残りは国債を発行し借金として補っています。3つ目は人生100年時代に入りました。

第二次大戦後の昭和22年日本の平均寿命は、男性50歳女性54歳でした。今は男性81歳女性87歳です。100歳以上の人は6万9千人います。益々高齢者が増えていきます。これからは、若い世代、現役世代が高齢者を支えていくという社会保障か

ら、真に困っている人は、年齢を問わず支えていく全世代型の社会保障へと変わり始めるでしょう。

さて、東葛支部も例外に漏れず、会員の高齢化が進んでいます。

定年が延長され、働く環境になればなるほど、会員の勧誘が難しくなります。

ですから、現在会員の健康を第一に考え、行動できる会員にならねばと思っています。

又、あらゆる機会を利用して粘り強く会員の勧誘をしていかねばなりません。

行動を起こし、同窓生の自宅を訪ね顔を合わせ、勧誘に努めねばとおもいます。

問題になるのが、勧誘活動の交通費などですが、同窓会本部もだんだん予算が削られ支部への助成金も少なくなりますと伝えられています。そこで、会員勧誘活動の寄付をつのり、それを充てるようにするのも一案かと思っています。

以上、次の元号のスタートに合わせ、東葛支部会員皆様様の健康とご協力をお願いする次第です。

吉田勝彦前支部長を偲んで

中村 軍治(32M)

昨年9月23日現支部長より吉田さんが亡くなられたとの電話があり、その前に入院の報を受けており、様子を見て皆でお見舞いに伺うつもりでしたので、とても残念でなりませんでした。

9月26日の通夜には布施同窓会会長を始め役員方、電気科の同級生、東葛支部の役員達が参列し亡骸に合掌致しました。会食の席で予てより吉田氏が地域ボランティア活動のふるさと協議会の会長をしていた関係上、親交のあった沼南高柳高校の中村校長と同席となったが、この先生が小生の甥であることは、吉田氏に伝えてありましたので、甥も大変悲しまれたことと思います。

吉田氏と知り合いになったのは千葉工業高校へ入学した当時、白井市出身の私は通学で東武線高柳駅から乗車していました。この駅前に在宅していて一緒だったからです。

当時下車して雨降りの時、小生に傘を貸してくれたこともありました。お礼にマッチ箱をつけて返してくれたよ!と、後世に話すこともありました。

クラブ活動は肉弾相打つラグビー部で村越先生の指導で活躍していました。結婚式の仲人も先生にお願いしていたことから、気に入られた選手だった様です。ラグビー大会を収録したDVDが2002年1月10日にNHK首都圏いきいきワイドで公開放送されていました。(この件第30号本部同窓会報に載っております)

卒業後は三越に入社し、会社の業績向上に貢献し、定年退職後は千葉工業同窓会東葛支部の結成に尽力され、我々の同窓会支部長としてリーダーシップを発揮されました。この会により年齢を超えたコミュニケーションの場を築いて頂きました。また、同窓会本部の運営に助言と改革に勤め、発展に多大な貢献を致しました。地域活動も積極的に参加し、老人会会長として慕われ、公私共に多忙な人生だったと思われ、まさに敬愛される人物でもありました。

本当に惜しい人を失いました。今後もあの世から応援をお願い致します。

私と木間さんとの出会いは、リーマンショックによる金融危機の煽りを受け、千葉工業同窓会の財源である「財団法人千工会」からの助成金の減少を余儀なくされたこと、更には「財団法人千工会が一般財団法人千工会」への移行(平成25年4月1日に登記)に伴う千葉工業同窓会への助成金が確実に減少する事に鑑み、平成24年の同窓会本部総会で副会長に就任され、懸案の財団法人千工会からの大幅な助成金の回避並びに同窓会会則、規約、旅費規程の見直し等々同窓会の運営資金の削減に副会長として、この難関を持つ知識を遺憾なく発揮されスムーズに改定でき、現在の同窓会活動を円滑に運営できる道筋が出来ました。

また、レクリエーション委員長として、ゴルフ同好会・麻雀同好会・囲碁同好会・ハイキング同好会の発展にご尽力を頂くと共に、平成25年度には「グランドゴルフ同好会」を立ち上げるなど同窓会の活性化に取組で頂きました。

更に、平成28年11月26日「千葉工業高校創立80周年記念事業」の企画から具体的事業内容等々へ精力的に取り組んでいただき、創立80周年記念式典には、千葉県教育庁、千葉市長、県内高等学校校長など多くの関係者の下、盛大に挙行することが出来ました。木間さんのご尽力の賜であり感謝するばかりです。

私事ではありますが、木間さんは、松戸市北小金の地域へのご奉仕も積極的に取り組まれ、私ども夫婦もお誘いを受け、本土寺で開催される「茶豆祭り」に何度か誘われ、枝豆をつまみに美味しいビールを飲み交わしました、その後体調を崩され心配しておりましたが、ある日突然木間さんから御連絡を頂き、千葉のお寿司屋にてお元気になられた木間ご夫妻と私共夫婦で楽しい会食が、昨日のように思い出されます。

木間さん、沢山のご教授・ご支援に感謝申し上げますと共に、ご冥福を御祈念申し上げます。

合掌

母校の生徒海外研修生に高度用スーパー竹とんぼ作りを指導 そして、その経緯について

鎌形 武久(33C)

2018年11月26日(月)、西澤校長の依頼で母校の生徒海外研修生11名に台湾の生徒との交流に使用される中級の高度用スーパー竹とんぼの作り方や校庭での飛ばし方を指導しました。

海外担当は電子機械科の藤澤宏有先生で、昨年の6名に対し、今年は女性2名を含む11名と参加者が増えたため、海外の生徒との交流に必要な竹とんぼ作りのノルマを昨年の1人あたり、10機から6機に減らすことが出来ました。

今年は時間に多少余裕が出来たため、高校生には必要な、昔の竹とんぼに対し、スーパー竹とん



(写真は西澤校長と私、竹とんぼ作成中の生徒は竹の粉塵等を防ぐためのマスクを着用、藤澤先生撮影)

ぼの良く飛ぶ原理、(流体力学で言う揚力の向上を目指して応用した羽根の迎角(約30度)、回転速度(軸を細くしたり、シューター使用)、慣性力を上げるため、羽根の中央を軽く、周辺を重くする(幅や厚み、象眼等)エネルギーロスを減らすため、羽根のバランスを良くしたり、羽根の形状や軸

の重さや長さをギリギリにする。等を説明しました。

また、今回は2020年の東京オリンピックに向けて私が開発中の「つや出しニス塗り4.5×13センチの千代紙キャッチとんぼ」(差し台付きで、飾りと水平飛ばし用を兼ねたもの)を11名の生徒と台湾

の学校へのお土産用として学校にプレゼンしました。

その経緯は

私が初めて母校生徒の紙とんぼや竹とんぼに関わったのは2014年4月20日(日)の第29回千葉工業高等学校同窓祭終了後、深山同窓会長から校長室に案内され、21代の国馬校長に紹介されてからです。その時、国馬校長より、11月11日(土)、12日(日)イオンモール幕張で開かれる「千葉県高等学校産業教育フェア」の中の千葉工業高校が担当する「リサイクルおもちゃづくり」にスーパー紙とんぼで協力出来ないか、との話があり、その場でOK、フェアの当日、参加した千葉工業の生徒に紙とんぼの作り方と飛ばし方を教え、さらに牛乳パックで作ったシューターの扱い方を伝授しました。生徒たちは訪れた子どもたちに、紙とんぼ作りと飛ばし方を教え、お兄ちゃんらしく対応していました。この終了後、隣の場所で、参加した千葉工業の生徒に、私の作った中級の高度用スーパー竹とんぼと女竹製のシューターをプレゼントしました。そして、飛ばし方を教えたところ、あまりにも高く飛ぶ竹とんぼに生徒たちは喜々として飛ばしていました。この翌年の2015年にも同様の依頼があり、2

日間、このイベントに参加させて頂きました。

そして、2016年、国馬校長より、千葉工業高校の生徒海外研修で、「台湾の生徒との交流にスーパー竹とんぼを使いたい」との要望があり、喜んで自作の高度用竹とんぼを学校に送らせて頂きました。

翌年の2017年には鈴木校長より、生徒が自信をもって海外の生徒と交流させたいので、高度用スーパー竹とんぼの作り方を生徒に教えてほしい。そして、この竹とんぼを使って台湾の生徒に指導しながら交流したい。との依頼があり、11月30日(月)、藤澤先生が担当で、台湾への生徒海外研修生6名に中級の高度用スーパー竹とんぼ作りの指導をしました。①手で飛ばしたり、シューターでの飛ばし方の訓練、②約20程ある竹とんぼ作りの工程を体験したり、③人数が少なかつたため、一人10機ずつ、完成品を作ってもらった必要があったため、5時間弱の時間がかかってしまいました。なお、母校への竹とんぼの寄贈は私が初めてではなく、今から10年ほど前、千葉工業高校の生徒海外研修(当時はベトナム)用に、千葉竹とんぼ倶楽部の湯浅稔代表より、初級のスーパー竹とんぼが寄贈された。と聞いています。

九州7全県周遊ツアーに参加して

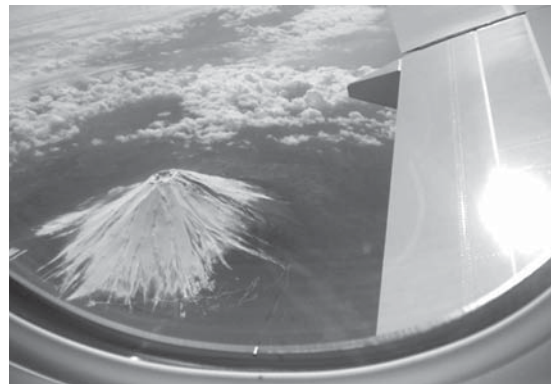
中村 軍治(32M)

2018年3月11日羽田空港10:30発福岡行ANA 搭乗8800m上空より噴火口が見えた。

明かに富士山であることに気がついた。今迄何度か通過したが、窓側に座席を確保出来なかった事と、下方の雲に遮られ見たことがなかったから、大変感動した。

今迄沖縄、北海道、中国地方と現役で仕事や小旅行で訪れた地方以外の観光地を元気なうちに夫婦で旅をすることになっている。

航空便は新幹線利用より安上がりであり、現地の観光バス併用で可也の範囲の観光地を移動できるので、日程は忙しいが快適に旅をすることが出来ます。12:30に福岡空港着。菅原道真公で有名な大宰府天満宮へ、各種の梅花が多く残り、桜もつぼみを膨らませていた。



夕方別府湾沿いの食堂街で夕食、別府湾ロイヤルホテル泊。翌日湯布院散策、大分県から宮崎県のやまなみハイウェイは人家もまばらで、行けども行けども山林だらけ、マンゴウ農家は見当たらず。溪谷で有名な高千穂峡は岩、滝、清流といつ



か行って見たいと思っていたところであった。霧島連山に近づいた夕方、突然山頂から煙が吹き上がった。新燃岳の噴火が出迎えた様だ。此の山から5^{キロ}位のホテル霧島に泊。夜中に避難勧告とはならず済んだ。この2日目のバス走行は、約350^{キロ}不思議と疲れを感じない。

3日目の朝、鹿児島県の霧島神宮に参拝。道路は薄っすらと火山灰が積もっていたが、土産に持ち帰る程ではなかった。バスガイドさんは、神話を紙芝居で披露してくれた。

昼頃熊本城公園着、先ず加藤(清正)神社参拝、現地ボランティアガイドに案内され、熊本城へ、大震災に合った場内は石垣を始め、建物も一部は残骸と化していた。城の天守閣は改修工事最中で機材に囲まれ雄大な姿は拝観不可だった。倉庫状の建物は、1ヵ所土台の石垣が崩れ、テレビで見たままの辛うじて支えている状態だった。

初日の出

土屋 孝夫(34M)

前号で「私のこだわり」として投稿した初日の出の撮影、13回目となる今年、1泊2日で「松島湾から初日の出クルーズ」の旅をしてきました。2018年最後の日となる12月31日、昼に東京駅を出発して仙台駅へ、駅近くのホテルへ泊まり、夜はSENDAI光のページェントを見に行きました。

東京の各地にもありますイルミネーション、ここは高い木の上まで電気がついているだけで、特別にイルミネーションの変化はありませんでした。

翌朝は5時15分にホテルを出発の予定なので、早めの就眠となりました。

石垣の修復が一番大変で、城は2年後、その他は20年要するとの事であった。

熊本港より島原湾をフェリーで40分後長崎県の島原港着。一緒に乗船したバスで、16:50雲仙温泉富貴屋ホテル着。驚いた事は、ホテルの目の前が地獄谷群で各所から、湯煙と温泉が噴出していることだった。まだ明るいので、地獄谷を見て回った。

ホテルの風呂は硫黄泉で、白濁しており、源泉が近くで、硫黄の匂いもし、小学生時代箱根に修学旅行で体験したことが思い出され、懐かしく感じた。

三泊したから、今日最終日3月14日9:00出発、有名な長崎カステラの製造元で買い物。かさ張るので、宅配便で発送。佐賀県武雄神社の樹齢3000年の大楠(根元の空洞12畳敷)の樹を拝観、太い幹も空洞となり何とか耐えて居る様でした。

焼き物で有名な有田ポーセリンパークで、伊万里牛と蒸しカキ食べ放題の昼食(ここが今迄で最高の食事)。アルコール摂らず残念。再び福岡県に入り、柳川地区で自由散策、各所でつるし雛(さげもんと言ふ)の大展示場あり。北原白秋記念館にも入館してみた。オプションの名物柳川舟下りは利用しなかった。

佐賀空港19:00発20:35羽田着。毎回の事だが、羽田に着地して、やれやれ今度も無事に帰って来られたと思うのであります。



翌日早朝まだ暗いうちにバスで40分くらい走り塩釜港へ向かい、6時20分発の観光船でクルーズの始まりです。幸いに天気は良く、太陽が昇ってくると思われる空の一角が、だんだんと赤くなってきます。海の上は何艘も観光船が同じように初日の出を追いかけています。いよいよ太陽が地平線から顔を出す時間になりましたが、残念ながら地平線には雲がかかり、雲の上からの2019年初日の出となりました。



乗客一同歓声を上げ、神々しい初日に各自何を願っているか、しばらくは手を合わせていました。私も病気で手術後一人での旅は初めてとなり、今年も元気に過ごせるようにとお願いしました。



この松島湾は平成11年に発生した東日本大震災の時には津波が押し寄せたとのことですが、湾の中に島々がたくさん存在し、波除となったため、他の地域では十数メートルとなった津波は2メートルに抑えられて被害は少なくて済んだということです。ただ一つだった島が二つに分断された島、生えていた木々がなくなってしまった島もありました。



次に訪れたところは瑞巖寺です。



正式名称は「松島青龍山瑞巖円福禪寺」と言い、開創は平安の始めにさかのぼり、当初は延福寺と命名され、その後平泉・藤原氏の外護を受け、藤原氏滅亡後は鎌倉幕府が替わって大檀越となった。しかし、鎌倉時代中期開創以来400年の歴史を持って滅した。

1609年伊達政宗が5年の歳月を要し、瑞巖寺を完成させた。現存する本堂・御成玄関・庫裡・回廊は国宝に指定されている。

旅の終わりは塩釜神社の初詣、表参道は急な階段が200数十段続くので、裏参道から昇ると案内されたが、こちらかなりの坂道であり、寝不足と普段あまり運動をしていなかった体には堪えた。



初詣はどこ神社でも人々で大変な行列、皆さん何を願うのか、自分も又手を合わせ旅の無

事と、健康で元気に過ごせることを祈りこの旅の終わりとなった。

「風邪に負けない!」男の料理教室を開催

金子 賢二(34M)

昨年11月14日、秋天の爽やかなこの日、東葛支部秋の催し「男の料理教室」が高柳近隣センターで行われた。

9時20分集合。好天气に誘われて早めの会館入り、ロビーで10分程待つと仲間が一人、二人と来館し、予定の時間には全員が揃った。先生も来館され、仲間たちと台車を使って材料運びを手伝う。どんな「男の料理」が始まるのかを期待して会館2階の調理室へ。

本番に入る前に階下で定例会議を開き、今年6月の総会は支部結成20周年となることから、催事内容の検討について会員の意思統一を諮った。また、各支部総会への参加の件、年頭に行う新年会の前段で「下総自衛隊基地見学会」開催の現況報告等が済んで、料理教室開始時間となり調理室へ向かう。

まずは、各自持参の前掛けとバンダナを付け、本日の指導者・中村信子先生(日本料理士認定・東葛北部栄養ケアステーション管理栄養士)と挨拶を交わす。今日料理する4品のレシピを記したプリントを各人に手渡され、作り方を1品ずつ丁寧に説明されて二人で1品、調理台4台でそれぞれの課題に挑戦することとなった。

ご飯は調理の必要は無く、本日は「ニンジンすりおろしご飯」で、研いた米にすりおろしのニンジンと昆布、塩ひとつまみを入れて炊く。炊きあがったらごま油を少々足してかき混ぜ、盛りつけたご飯に貝割れ葉を添えて苦みと食感をプラスするという。

料理の本題は「風邪の季節に免疫力をつけよう!」で、①白菜と大根の味噌汁 ②白身魚のハン

バーグ ③カボチャのヨーグルトサラダ ④豆腐入りみたらし団子の4品です。

私と富田氏が「カボチャ……」を担当。ここで「ボールが無い、ザルが無い、オタマが無い……」と調理室のあちこちを全員で探し始め、「あったぞー」の音が響き渡るハプニング。これ

からの作業にちょっとブレーキが掛かった。

しばらくすると、各調理台から「先生、これはどう切るの?」「先生、水はどれくらい入れますか?」と出だしから大騒ぎに……。先生から再度ご指導をいただきながら調理を進める。まず、カボチャコースは玉ネギをスライスして水に晒す。次にカボチャを一口大に切る。これが結構力のいる作業だ。切ったカボチャを鍋底に並べ、水はヒタヒタ位に入れて煮る。楊子で突きながら柔らかくなったらお湯を切り、煮えたカボチャの1/4をボールに移し、スプーンの背でつぶす。これにレーズンとヨーグルトを加えてよく混ぜる。これが盛りつけ後のソースとなる。カボチャを器に入れ、ソースを掛けてパセリとつぶしたナッツを乗せ色付けすると完成だ。

我々が出来上がった頃、他のグループも同様に盛りつけが済み、いよいよ試食。各グループがそれぞれ出来映えを自慢するほど美味しかった。楽しい料理の時間が短く感じたのは、私一人ではなかったようだ。私には初体験の「男の料理教室」でしたが、先生の評価も良く嬉しかった。食後は全員で食器類を洗い、所定の場所に収納して終了。仲間と別れた後、我が家でいつか復習したいが、いつになるだろうか?と、今日の料理手順を思い出していた。



読書 ～つれづれなるままに～ 徒然草(6)

平成も改元されるも、人をだまして利益を貪る「おれおれさぎ」が依然と多発しています。

兼好法師の(1283～1352年)の時代でも多々あったようです。その一文を紹介します。

「うそ」と人間関係～達人の人を見る眼

(原文)

達人の人を見る眼は、少しも誤るところあるべからず。たとへば、ある人の、世に虚言(そらごと)を構え出(い)出して人を謀ることあらむに、素直にまこと思ひて、言ふままに謀らるる人あり。あまりに深く信を起こして、なほ煩はしく嘘言を心得添ふる人あり。また何としも思はで、心を付けぬ人あり。またいささかおぼつかなくおほえて、頼むにもあらず、頼まずもあらず、案じいたる人あり。またまことしくはおほえねども、人の言うことなれば、さもあらなむとてやみぬる人もあり。またさまざまに推し、心得たる由(よし)して、賢げにうちうなずき、ほほえいていたれど、つやつや知らぬ人あり。また推し出だして、「あわれさるめり」と思ひながら、なほ誤りもこそあれと、怪しむ人あり。また異なるやうもなかりけりと、手を打ちて笑ふ人あり。また心得たれども、知れりとも言わず、おぼつかかなかなるは、とかくのことなく、知らぬ人と同じやうにて過ぐる人あり。またこの虚言の本意を初めより心得て、少しも欺かず、構へ出(い)だしたる人と同じ心になりて、力を合はする人あり。

愚者の中の戯(たはぶ)れだに、知りたる人の前にては、このさまざまの得たるところ、詞(ことば)にても顔にても、隠れなく知られぬべし。まして、明らかならむ人の、惑へる我らを見むこと、掌(たなごころ)の上の物を見むがごとし。ただしかやうの推し量りにて、仏法までをなずらへ言うべきにはあらず。

(訳)

ものの道理お悟った達人が人を見抜く眼力には、微塵の誤りもない。たとえば、ある人間が、「うそ」を作り出して人をだまそうとした場合、第一には、それをすなおに事実と受け取って、「うそ」をつく人間の言うがままにだまされる人がいる。しかも第二には、「うそ」をあまり深く信用しすぎて、さらにやっかいなことには、「うそ」を添加する人間も出てくる。

第三には、何とも思わずまるで無関心な人もいる。

第四には、少し不審を感じて、信用するでもなく信用しないでもなく、考え込んでいる人もいる。

第五には、事実とは思わないけれども、どうせ人の言うことだからそれもそうだろうと考えて、そのまま放っておく人もいる。

第六には、あれこれと推理し知ったかぶりして、利口そうにうなずき微笑しているのだが、実は何もわかっていない人がいる。

第七には、推測の結果、「ああ、どうも、うそらしい」と判断しながら、やはり推測に誤りがあるかもしれないと、危ぶんでいる人がいる。

第八には、特に変わったこともないな、と手を打って笑う人がいる。

第九には「うそ」であることを十分知っていながら知っているとも言わず、自分がはっきりわかったことに関してはそれ以上あれこれ言わないで、知らない人間と同じような態度をとる人もある。

第十には、この「うそ」の目的をすべて理解していて、あざけることなく、「うそ」張本人と心を合わせて、だますのに協力する人間がいる。

こうした「うそ」のような愚かな人間同士の冗談でさえ、真相を知る人の前では隠しようもない。これまで述べてきた、「うそ」に対するさまざまな反応の仕方が、言葉遣いや表情によって明白になってしまうのだ。

ましてや、ものの道理に明るい達人が、道理に暗いわれわれ凡人の真意を見抜くことは、まるで手のひらの上の物を鑑定するようなものだろう。

ただし、このような考えを延長し、仏法の方便まで「うそ」と同様に扱ってはならない。

(感想)

「うそ」を明確に十種類に分類している。心理学の論文として通用するほど分析のメスは鋭い。「うそ」をつく人間とつかれる人間との対比が鮮やかで、「うそ」にきづく程度によって、理路整然と分類するのも、兼好の倫理的な頭脳をよく示している。

現在の「さぎ」グループも心理学を良く勉強しているのであろうか

(参考文献 角川書店 徒然草)

(記 34M 坂巻 実)

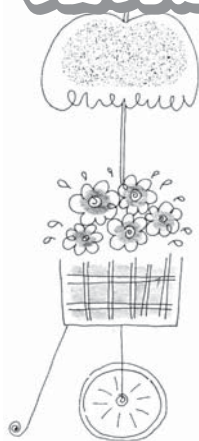
●皆様の趣味や得意とするものをご連絡下さい●

会員の皆様は、色々な趣味をお持ちだと思われていますが、比較的ポピュラーと思われるものについて、役員の中かで一応の担当者を決めてあります。会員の皆様のご趣味・得

意な分野・特技などを把握し、色々な行事や交流にお誘いしたいと考えています。趣味や得意な分野が一致した方は、それぞれの担当者までご連絡下さい。

● ゴルフ	土屋 孝夫	〒213-0001	川崎市高津区溝口3-18-17	TEL.044-844-2767
● ハイキング 釣 り	土屋 孝夫	〒213-0001	川崎市高津区溝口3-18-17	TEL.044-844-2767
● 囲碁・麻雀	高橋 健一	〒270-0157	流山市平和台5-400	TEL.04-7159-9367
● スーパー 紙とんぼ	鎌形 武久	〒270-2241	松戸市松戸新田21-3	TEL.047-364-5084
● 茶 道	富田 博	〒272-0015	市川市鬼高3-12-39-516	TEL.047-393-0850

今後の予定



東葛支部の予定

令和元年
5月22日(水) 13:00～
定例会議(高柳近隣センター)
6月9日(日) 13:00～
第21回支部定期総会 創立20周年記念大会
(我孫子・鈴木屋本店)
7月(日時未定)
定例会議(高柳近隣センター)及び暑気払い
9月18日(水) バーベキュー大会
場所: 柏セブンパーク・アリオ
11月2日(土) 「千工祭」見学ツアー
場所: 千葉工業高校
11月(日時未定)(水)「男の料理教室」
場所: 高柳近隣センター

本部・他支部関係の予定

令和元年
5月12日(日) 14:00～
市原支部定期総会(市原市:五井グランドホテル)
5月16日(木) 10:00～
常任幹事会(千工会館)
5月16日(木) 14:00～
記念講演会 北総支部の中村勇三郎さん(38M)により
「千葉エラグビーに育てられた私の人生」と題して
創立記念講演が開催される
5月19日(日) 14:00～
京葉支部定期総会(船橋市:割烹 玉川)
6月2日(日) 14:00～
北総支部定期総会(佐倉市:ホテルリッチタイム)
6月30日(日) 11:30～
第34回同窓祭(JEF宮崎クラブ)

編 集 後 記

先日(4月7日)外房支部の定期総会に行ってきました。定期総会が行われる「八瀉亭」周辺の桜も近年にない見ごろでしてきっと定期総会に参加された方は思う存分に桜を満喫されたのでは、

さて、東葛支部は今回の定期総会で創立20周年を迎える事になりました。

思い起せば、平成11年6月20日、柏市増尾近隣センターで創立総会を開催し、東葛支部がたちあがりました。10月には東葛支部会報「創刊号」が発行され表紙はカラー印刷が施され参加者全員の集合写真で飾られています。

創刊号の記事として支部長 立崎作次さん、同窓会

会長 安藤信吉さん、学校長 永峯清秀先生のごあいさつの記事が掲載されていまして設立時の雰囲気が感じられます。

さて、会報の中でもお話が出て居ますが、非常に寂しいお話ですが、東葛支部創立以来、ご苦労なさって来られました。

第2代支部長 吉田勝彦さん、事務局長 木間英一さんが逝去されて非常に悲しく、今後東葛支部の指導者を失い迷走しているところです。

きっと吉田さん、木間さん、天国から見つめて居られると思いますので、今後も東葛支部に熱いご声援をお願いします。

新入会員募集と入会手続きについて

東葛支部では、会員を増やしてどんどん組織を大きくしていきたいと思っています。このため、役員の中に「会員増促進委員会」を作って活動しています。

会員の皆様の仲間で、会員資格のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ入会を勧めて下さい。

1. 入会資格 千葉工業学校、千葉工業高校、および同校併設中学校の卒業生、ならびにかつて同校に在勤、在学していた方で支部長が認めた方。
東葛地域に居住している方及び千葉県外に居住している方、または出身が同地域の方、同地域に勤務されている方。
2. 会 費 年会費 3,000円
3. 入会手続 役員へ入会申込みされますと郵便振替用紙をお送りしますから、年会費3,000円を振込願います。

支部会報第32号の原稿募集

東葛支部会報第32号の原稿を募集します。

1. 発行予定 令和2年4月
2. 原稿締切 令和2年2月
3. 内 容 母校の思い出・恩師の思い出・私の職場・私の仕事・私の趣味・私の特技・旅日記・近況・クラス会模様・エッセイ・呼びかけ・イベント報告 等、何でも結構です。
4. 投稿方法 卒年科・ご氏名を記入の上、郵便・FAX(自動受信)・E-mailのいずれかでご投稿下さい。
5. 投稿先 編集委員長 中村軍治 〒270-1166 我孫子市我孫子1-3-17
TEL:04-7182-3779 E-mail:nakagu@jcom.home.ne.jp
編集委員 土屋孝夫 〒213-0001 川崎市高津区溝口3-18-17
TEL:044-844-2767 E-mail:golf-t@tbn.t-com.ne.jp
編集委員 富田 博 〒272-0015 市川市鬼高3-12-39-516
TEL:080-6532-9506 E-mail:c-tomi@rr.em-net.ne.jp

東葛支部会報

第31号

発 行	令和元年5月1日
発 行 者	千葉工業同窓会 東葛支部
発行責任者	支 部 長 坂 卷 実
事 務 局	事 務 局 富 田 博
編集責任者	編 集 委 員 長 中 村 軍 治